

## カンボジアの人材及び職業

岡山県カンボジアビジネスサポートデスク (I-GLOCAL Mak Brathna)

### はじめに

カンボジアの隣国であるタイやベトナムでは、経済成長に伴い優秀な人材が豊富に育っている状況にあるが、カンボジアでは、外資系企業による投資は増加傾向にあるものの、人材の労働生産性の低さや管理人材の不足などをよく耳にする。企業にとって、優秀な人材の採用は非常に重要な要素であるため、今回のレポートではカンボジアの人材問題について記載したい。

### 1. カンボジアの教育事情

カンボジアの経済はここ数年間、成長率 7%以上と高成長を続けているが、教育制度の発展が経済成長に追いついていないのが実状である。2012 年に国際労働機関 (International Labor Organization) が発表した最終学歴調査のデータによると、小学校未満の児童の割合は全体の 14.7%、小学校卒が 49%、中学校卒が 29.5%、専攻学校卒が 3%、高等・大学卒が 3.7%となっている。貧困層の子供たちは家計を支える労働力として期待されているため、アルバイトや仕事をしなければならず、特に女性の場合は、早すぎる結婚により学校を中退するケースが目立つ。大学全入時代に入っている日本の学生と比べ、高校や大学へ進学する学生は少しでも良い職に就きたいといった強い動機が見られる。

では、高校や大学では何を専攻するのかを次項で説明したい。

### 2. 専攻と言語学習環境

下表によると、高校や大学で勉強している学生の各専攻別割合は、社会科学・ビジネス及び法律が 15.8%、理工・数学・IT が 14.4%、教育が 11.2%、一般教養が 38.6%となっている。一般教養の中でも特に外国語の人気の高い。

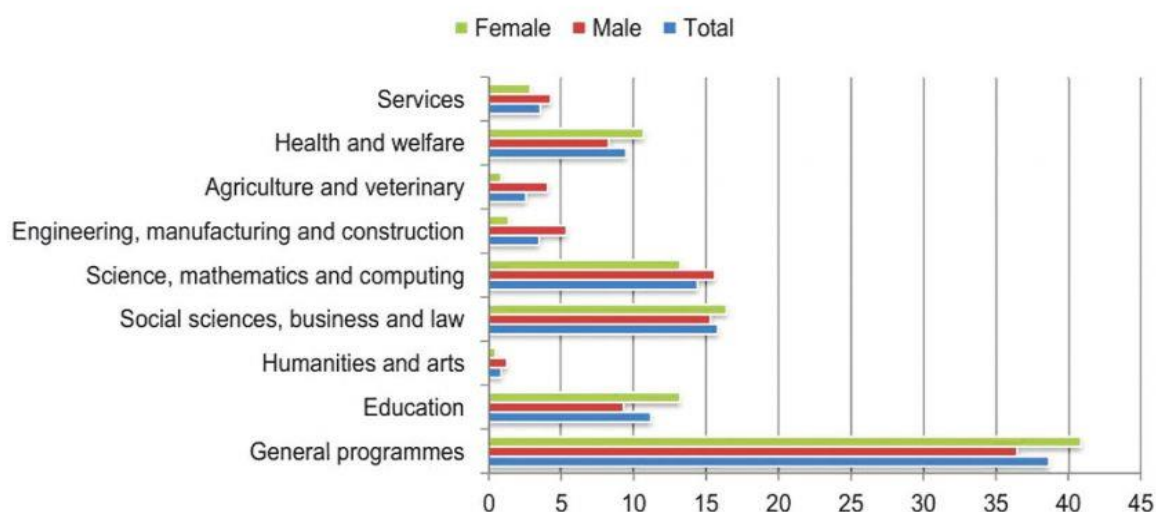
カンボジアにおいては、英語や中国語を話せる人材が多いと見られている。高校や大学の教科書はクメール語で表記されているが、レポートを書く際に参照する文献はクメール語で残っていない場合が多く、そもそもクメール語で表記された文献自体が少ないため、英語を話せないカンボジア人は高校や大学で勉強に支障をきたす。また、学生は英語を話せないと給与の高い職に就くことが出来ないため、英語に対する学習意欲は高い。

中国語に関しては、カンボジアには華僑が多く、カンボジア人との婚姻を通じてカンボジア社会に溶け込んでおり、また、国別海外直接投資では、中国からの支援・投資が圧倒的で、これまでは中国語を勉強するクメール人が多くいた。しかし、現在の学生は中国語の勉強のみならず、差別化を図るため、日本語、韓国語、ベトナム語およびタイ語などの勉強を始める傾向がある。

なお、近年は日系企業の進出に伴い、日本語学校が増加し、大学でも日本語を勉強できる環境が整ってきた。プノンペンにおいて日本語学科を備える大学は、Royal University of Phnom Penh (RUPP)、Royal University of Economic and Finance (RULE)、National University of Management (NUM)、Mekong University の4大学である。

また、日本語学校はプノンペンの場合 Tayama Business School、Cambodia-Japan Cooperation Center (CJCC)、NGO、NPO Hikari International School、Himawari Japanese School が有名であり、シエムリアップにおいては Yamamoto Japanese School、Angkor Thom Japanese Center 等がある。

Figure 3. Current young students by preferred field of study (%)



Source: SWTS-Cambodia, 2012.

### 3. 専攻と業務内容の関連性

ある人材紹介企業の調査によれば、スタッフ全体の内、自身の専攻と合致する業務に就いている人材の割合は半分程度で、残り半分は専攻外の業務に就いているとのことである。しかしながら、専攻外の業務に就いている人材でも、その内6割は業務に支障がないが、残り4割に関してはやはり専攻外であることが原因で、トレーニングに時間がかかるという企業の声があった。

実際に、大学で専攻する科目と現在の業務とで大きな相違があるものの中には、勉強した専攻を職業に生かせないため、面接を断られたり、試用期間中に辞めさせられたりするケースもある。失業問題は業務経験が不足していることから発生していると広く考えられているが、ILO の報告によると、業務経験不足率は 27.4%であり、自身の専攻との相違も 17.1%を占めている。15 歳～29 歳の失業率は 2.1%と低い数値であるが、高等教育を受けた人材の失業率は 3.8%と平均値を上回っており、社会に出た後の実務に繋がる教育を行うことが喫緊の課題である。

#### 4. 就職活動

企業は自社の要求水準を満たした学生を雇用することに苦労しているとよく耳にする一方、卒業もしくは在学中の学生も就職先を探すのは容易ではない。実際に現在働いている企業へ応募を行った方法について調査すると、友達・親戚からの紹介が 76.2%、直接企業へ連絡した場合が 2.6%、オンライン求人サイト経由が 2.9%、自ら起業した場合が 11.1%、その他の方法が 7.2%であった。高校・大学での専攻と合致する求人がなかったため起業を行ったという回答が 11.1%もあることは特筆すべき点である。

#### 5. 給与水準

アセアン経済共同体構想の中に、8 専攻に関する給与額についての記載がある。

専攻	給与額
金融・会計	200 米ドル～1,000 米ドル
技師・建築家	200 米ドル～1,500 米ドル
人材管理（管理職）	1,000 米ドル～3,000 米ドル
IT	250 米ドル～1,500 米ドル
Mechanic	250 米ドル～1,000 米ドル
コミュニケーション	500 米ドル～1,200 米ドル
管理者	200 米ドル～ 800 米ドル
マーケティング	200 米ドル～1,000 米ドル

一方で、現在日本語を話せる人材は高給で雇用されており、新卒の場合であっても 350 米ドル～500 米ドルの給与を与えている日系企業が多い。カンボジア人は日系企業に就職すれば、クオリティの高い業務を行い、優良なトレーニングを受けるチャンスがあるため、成長できると考えている。

### おわりに

カンボジアの学生にとって、将来を見据えた上で自らの専攻を選択することは非常に重要であり、学生自体もそれを理解している。

また、大学を卒業した後も仕事帰りに語学学校・専門学校に通うなど自己の成長に対して非常に貪欲であるため、会社としても成長を促す環境を整えることが優秀な人材の採用に繋がるのではないかと考える。

求人市場では、求職者へのアプローチ方法など、カンボジアの事情をより詳細に把握しておくことが望ましいため、人材紹介会社や大学・語学学校等で情報収集されることをお勧めする。

### 【参考】

1. Labour market transitions of young women and men in Cambodia  
「カンボジアの若い女性と男性に対する労働市場の変化」  
[http://www.ilo.org/employment/areas/youth-employment/work-for-youth/publications/national-reports/WCMS\\_221599/lang--en/index.htm](http://www.ilo.org/employment/areas/youth-employment/work-for-youth/publications/national-reports/WCMS_221599/lang--en/index.htm) (原文英語)
2. 「専攻とは異なる技術で働く多くの大学生」  
<http://goo.gl/HK09Q9> (原文カンボジア語)
3. 「カンボジアで要求される8つの職業」  
<http://goo.gl/6fvPVe> (原文カンボジア語)